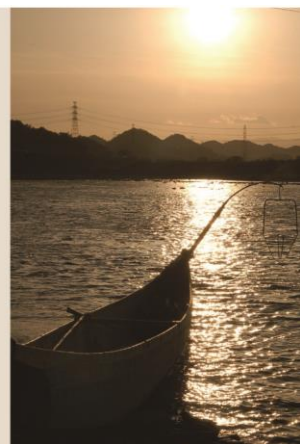




Rotary 関ロータークラブ

2019-20 年度国際ローターテーマ RI 会長 マーク・ダニエル・マローニ
 「ローター：ローターは世界をつなぐ ROTARY: ROTARY CONNECTS THE WORLD」
 2019-20 年度 関ロータークラブ会長 テーマ
 ～私ができる社会貢献をしよう～ 54 代会長 土屋佳久

■会長 土屋佳久 ■副会長 木村 聡 ■幹事 尾崎嘉彦
 白田龍司



■例会：火曜日 12:30

■例会場：関市本町 6-20 大垣共立銀行関支店 2F

■事務局：関市平和通 7-10-25 アメリカ 2F

本日のプログラム 第 2560 回例会 2019 年 11 月 12 日(火)



「関市の情勢について・市会議員になってみて」



パスト会長 長尾一郎さん

前例会の記録・第 2559 回 10 月 29 日(火)12:30

「雑感～国際交流～」

パスト会長 伊佐地英俊さん

◆開会点鐘

◆「それでこそローター」斉唱

◆会長挨拶



最近、朝晩めっきり寒くなってきましたが皆さん風邪などはひいてないでしょうか？同時にこの季節は食欲の秋とも言われています。食といえば先日ヤフーの会社が社員食堂のランチで、揚げ物料理を 100 円値上げする「揚げ物税」という取組を始めまし

た。その代わりに、魚定食を 150 円値引きしています。これは数年前から調査を実施しており、揚げ物を注文する社員が多くいたからであり、脂質の多い揚げ物ではなくコレステロールを減らす働きのある成分を含む魚料理を食べる人を増やす事で社員の健康増進を支援する狙いがあり、この会社では以前より社員の健康に投資する事で自社の生産性などを高める「健康経営」に取り組んでおり、これは「働き方改革」の一つでもあるようです。皆さんの会社では「働き方改革」の取組は何かしてみえますでしょうか？私の会社は進んでいるとはいえないのが現状です。例えば「休日」で言えば「完全土日休み」が適用できるか！という土、日に仕事をしてほしいというお客様の要望を断る。という事になり、そんな事は出来るはずもありません。その代わりに代休を取ってもらう事しか出来なく、それを現在「休日出勤し

た場合には一定期間内に代休をとって下さい」として活動していますが、まだまだ浸透していません。皆さんの会社での「働き方改革」の実施例や成功例、今後行っていきたいことなどがあれば、例会時又は IGM などを有効活用し会員同志で話し合うのも非常に良い事で、これも「職業奉仕」の一つといえるのではないのでしょうか。

◆委員会報告

◎出席委員会 委員長 山田一成

会員 50 名中 出席 23 名 出席率 47.92%

◎ニコボックス委員会 委員 加藤浩二

会長・副会長・幹事の皆さん・・・本日は、パスト会長 伊佐地さんのお話が聞けるということで大変楽しみにしておりました。伊佐地パスト会長、よろしくお願いします

伊佐地英俊さん・・・本日は、パスト会長卓話ということで皆様の前でお話しをさせていただく機会をあたえていただきまして、誠にありがとうございます。ロータークラブや関市国際交流協会のことをお話しさせていただきます。よろしくお願いします。

杉浦孝志さん・・・伊佐地君、私の担当例会に卓話を引き受けていただきありがとうございます。楽しいお話を聞かせてください。

清水公男さん・・・伊佐地英俊さんのユーモアあふれるスピーチに！

早川、酒井、東谷、長尾、後藤、加藤(浩)、藤井三輪、林(昇)、酒向、大岩、山田、福田の皆さん・・・パスト会長 伊佐地英俊様、久々の会員卓話登場、待っておりました。いつもの「英俊節」で例会場をドッカンドッカン沸かすお話、期待しております。

後藤、酒向、本田、猿渡、山田の皆さん・・・三輪さん、I G Mお世話になりました。10月21日(日)「食彩こうせん」にてI G Mが開催されました。三輪さん、美味しいお料理とお酒、楽しい時間をありがとうございました。

加藤浩二さん・・・命をつなげる会 20周年記念講演会、出席のお願い

◆幹事報告

◎11月の例会予定表配布

◎11月のロータリーレート 1ドル：108円

◎台風15号による災害義援金のお願い

◆「雑感～国際交流～」

パスト会長 伊佐地英俊さん



関市には「関市国際交流協会」があり、創立から25年目を迎えます。各種団体の長が役員となり、個人・法人等600名余りが会員となりました。創立当時、関青年会議所の理事長をしていた関係

で、副会長に就任させられ、すぐに会長代行、そして会長となりました。協会自体は官民一体の組織ではありますが、事業に関わる役員等の活動は100%ボランティアです。過去に数えきれない事業を展開してきましたが、もっとも心に残っている事業を紹介します。

関市の英語指導助手であったダービン・バビュック氏の橋渡しで、カナダのレスブリッジ市へ関市の中学生を派遣する事業が始まりました。一週間余り、向こうの中学校の生徒宅へ一人ずつホームステイをして交流を深める事業です。私は二回、団長として引率をさせていただきました。毎回受け入れ側の中学校の先生や父兄や生徒達からの「親切さ・温かさ」をつくづく感じておりましたが、二回目の訪問の際には、その上にレスブリッジ市民の温かさを、思いがけず心の底から味わう機会に恵まれました。事の発端は、派遣生徒が現金の盗難に遭ったことからでした。治安面においては、日本より悪いということで、旅行会社の添乗員や引率者から注意を受けていたわけですが、ちょっとした心の隙を突かれてしまいました。ホストファミリーの母親は、まるで自分のことのように心配をし、その子供も泣いていました。その後、この事件が地元の新聞の第一面に掲載され、「日本から交流に来た中学生に、こんな仕打ちをするのはレスブリッジ市民の恥だ」というコラムまで掲載されました。その日の夕方には、

受け入れ側の中学校で一人の男性が私を待って見えました。その人は、関市とレスブリッジ市の交流の橋渡しをしていただいたダービン・バビュック氏でした。彼は、「新聞を見て大変ショックを受けました。レスブリッジ市民の一人として、おわびを言いに来ました。」と言われました。この一言を言うために、彼は私をずっと長い時間待ち続けて見えました。何という優しさなのだろうと感動しました。新聞に掲載されて以来、事態は私たちの予想もしない展開を見せ、多くの人々から寄付が寄せられてきました。あっという間に、被害金額を超える寄付の申し込みがありました。受け入れ側の中学校の先生と父兄たちは、被害額を超えた時点からの寄付の申し出は、すべてお断りをしていました。匿名で寄付をする人。「寄付を子供たちに直接手渡しをしたい」と、三時間もかけてやって来ていただいた、癌と闘っている老夫婦。寄付は受け付けてもらえなかったのも、さよならパーティーの時に、トウモロコシやポテトなどの差し入れとそのパーティー会場まで「リムジンの乗用車バス」で送迎をしていただいたポテト工場のプラントマネージャー。その他、本当に数多くの市民の皆さんの優しさに触れることができました。すべての人々が、子供たちにレスブリッジ市での苦い思い出を消し去ろうという強い思いを込めた善意でした。その後、この一部始終が再び新聞の第一面で掲載され、さよならパーティーでは、寄付をしていただいた方々も招待され、また地元のテレビ局も取材に駆け付けました。お別れの日の集合場所や空港では、涙のシーンの連続でした。そこには、国籍も国境もありません。子供たちとホームステイ先のファミリーが流した涙は、まさに心と心が交流できた「結晶」です。子供たちは、ファミリーの信じられないくらいに親切さと温かさを、心のカバン一杯に詰めて帰って来ました。そして、子供たちは、ファミリーに対するとっても大きな感謝の気持ちを、彼らの心の中に置いて帰って来ました。私たち全員が、言葉では言い表せない感謝の気持ちで一杯でした。もちろん事件・事故は無いほうが良いに決まっていますが、この事件を通して、子供たちや引率者の全員が、国籍を越えた彼らの心の温かさを体験できて本当に幸せでした。

次例会のご案内 11月19日(火) 12:30

「地区大会の報告」 担当：会長、幹事